



令和5年3月

第19号

発行者・NPO法人
男女共同参画をすすめる会・IYOU淡海

ジェンダー潮流

国際女性デーに向けて ジェンダー平等の今を考える

「国際女性デー」は、国際婦人年(1975年3月8日)に国連で提唱され、その後、国連総会(1977年)で議決されました。女性のエンパワーメントとジェンダー平等社会を目指し女性の生き方を考える日です。黄色いミモザの花をシンボルに「ミモザの日」とも呼ばれています。UN Women(国連女性機関)が発表した今年のテーマは、「ジェンダー平等のためのイノベーションとテクノロジー」。これは第67回女性の地位委員会の優先テーマ「ジェンダー平等とすべての女性と少女のエンパワーメントを達成するためのデジタル時代のイノベーションと技術変化、教育」に添ったものです。

このたびの新型コロナウイルス感染拡大では、女性不況といわれるなど女性の就労に大きな影響を及ぼしました。背景には、非正規雇用で働く女性の割合が高いことや、女性が家事・育児・介護など家庭責任の多くを担っていることなどがあげられます。一方で、テレワークやビジネスモデルのオンライン化などデジタル活用が加速し、育児や介護などライフステージや生活スタイルに応じた柔軟な働き方を可能とする動きにつながっています。こうした中で「女性デジタル人材育成プラン」(2022年4月内閣府男女共同参画会議)に基づき、デジタルスキル向上とデジタル分野への就業支援の両面からの取組が進められています。一方、Society 5.0(超スマート社会)に向けて、人工知能(AI)やデータ活用が不可欠となる中で、現在のジェンダーギャップ(男女格差)のパターンが反映され永続させるリスクの存在が指摘されています。女性を取り残されることのないようジェンダーギャップの解消に向けた加速的な取組が急がれます。

また、デジタル社会がより進む中で、科学技術等によるイノベーションの創出(新しい価値を生み出す)が必要不可欠となっています。将来の仕事の75%が何らかの理数系能力を必要とするという推測されていますが、女子の理数離れは深刻です。義務教育終了段階では、比較的高い理数リテラシーを持つ女子は39%。世界トップレベルです。しかし、高校段階で理系を選択する割合は16%。大学入学時には5%となっています。理数能力は高いのに、なぜ女子の理数離れが起きるのでしょうか。その根底にあるのが、「女子は理系に向いていない」「女の子は女の子らしく」といった、保護者や学校、社会によるアンコンシャス・バイアス(無意識の思いこみ)の存在です。例えば、「女性の理系の進路(学校・職業)は向いていない」と決めつけられた経験は、「言動や態度から」のほか、「メディアから」とする割合も高くなっています。一方、女性保護者が理系の場合や、理数科目(数学、理科)の一科目でも女性教員の場合には、将来の進路を理系とする割合が高くなっており、身近なロールモデルの存在が、理数系に関する知識や情報を得やすく、キャリアプランなど人生設計のイメージがしやすいのではないかと考えます。

科学技術・イノベーション会議(内閣府 2022.6.2)では「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」の三本柱の一つとして「文理分断からの脱却・理数系の学びに関するジェンダーギャップの解消」が謳われています。また、滋賀県立大学では「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」において、女子中高生の興味・関心を高めて理工系分野へ進むことを応援しています。このように女子児童・生徒が、科学技術を身近に感じ、興味を持てるような機会を増やしたり、理工系の進路選択がどのようなキャリアパスにつながるか十分な情報や体験を提供したり、本人だけではなく、保護者や教員の皆さんをはじめ社会全体で理解を深めていくことが大切であると思います。「国際女性デー」を機に、今一度、子どもたちが未来に向けて多様な選択ができるよう一緒に考えてみませんか。

Contents IYOU 淡海 2023.3 NO19

ジェンダー潮流 「国際女性デーに向けて ジェンダー平等の今を考える」 P1

クローズアップ 「SDGs5×SDGs4×MLGsで持続可能な社会の基盤づくりを」滋賀県副知事 大杉住子さん P2

しが女子 認定特定非営利活動法人四つ葉のクローバー理事長 杉山真智子さん P6

IYOU 淡海 2022-大人キャンパス「スカット」 P8



SDGs5×SDGs4×MLGsで持続可能な社会の基盤づくりを

滋賀県副知事 大杉住子（おおすぎ すみこ）さん

平成9年文部省採用。外務省在イタリア日本国大使館一等書記官、文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長、独立行政法人大学入試センター審議役、文部科学省国際統括官付国際戦略企画官、文部科学省高等教育局私学部参事官、文部科学省初等中等教育局幼児教育課長を経て、令和4年（2022年）8月から滋賀県副知事

予測不能な未来の担い手とされる子どもたちの学びを支える新学習指導要領。その改訂の考え方やポイント、また、ジェンダーギャップ指数が116位（146か国中）と依然として格差が大きい中で、ジェンダー平等の学びの状況などについて滋賀県副知事の大杉住子さんに伺いました。

＜ご活躍の状況や印象に残るエピソード＞

ー日本の課題と世界の課題とを繋げながら考えるチャンスがあった

これまで文科省（文部科学省）では、国立大学の法人化や認定こども園の制度化、学校教育法の目的・目標規定の見直し、キャリア教育などに携わってきました。愛媛県教育委員会やフランスやイタリアへの派遣もありました。最近では、学習指導要領の改訂や大学入試改革、こども家庭庁設置に向けた準備等に携わり、今回ご縁があって滋賀県でお仕事をさせていただいています。

それぞれに思い出深いのですが、パリのユネスコ本部に派遣された時には、上司は中国出身でチームにはコロンビアやインド、フィンランドの方などいろいろな国籍の方と一緒に仕事をしました。当時の日本は残業が当たり前の時代で、遅くまで残っていたら「お前は人生がなくなっちゃうぞ」とコロンビア人の同僚に言われ、初めてワーク・ライフ・バランスを意識しました。職業教育を担当していましたが、韓国で開催されたシンポジウムでは、分科会のひとつを任されました。女性活躍のワーキンググループで、世界中から有識者たちが集まり議論しようとしたとき、欧州評議会が用意したビデオが規格違いで流せないことが判明。若手の女性たちが、語学や情報ネットワークを駆使してワッと動いてくれて、最後には間に合わせる事ができたんですね。そのビデオは、童話仕立てで勇気ある女の子がチャレンジしながらキャリアを形成していく、まさにグラスシーリング（ガラスの天井の意。女性の能力開発を妨げ昇進や意思決定の場への登用を阻害している見えない障壁）を破るストーリーだったのですが、それぞれ背負っているものがあるのかみんな泣いちゃって。日本でも、閉塞感を感じた意欲ある女性が、国際機関や海外に活躍の場を求めるようなことがありましたが、各国でもそれぞれ悩んでいる女性がいる、みんな頑張っているんだ、私たちも頑張ろう、何か国境を超えた連帯意識が生まれた瞬間でした。

在イタリア大使館在任中は、ポップカルチャーイベントでブースを出していたら、深刻な表情の男の子が来て「イタリア人は、陽気で誰とでも気さくに喋るというイメージが強い。でも僕は違う。ステレオタイプで見られるのがすごく嫌。日本は繊細なことを大事にしてくれる文化があるから、日本に留学したい」と語ってくれました。ステレオタイプは、どこの国でも重荷になることがあるのだと感じたりしました。こんなふうに、日本の課題と世界の課題とをいろいろ繋げながら考える。そういうチャンスがあったのはすごくありがたかったと思っています。

＜子どもたちの学びと未来ー学習指導要領の改訂を通じて＞

ー改訂のポイントは「子どもを主語に」

学習指導要領が変わると教科書も変わる。教科書が変わると先生方の授業も変わる。それは文科省が決めて伝達するものというようなイメージがありますが、実はそうではありません。全国の先生方や教育支援の関係者など400人ぐらいが、アクティブ・ラーニング（グループ・ディスカッション等）も通じながら2年間議論してまとめていきます。改訂時の教育課題や、先生方が感じている様々な認識を汲み取りながら、次の指導に繋げるという循環が生み出されています。

今回特に大事にしたこととして、これからの予測しきれない変化の中で、子どもたちがこの変化を受身で受け止めるのではなく、チャンスと捉えて活躍していけるように、また、学校としても、社会の変革をリードしていけるようにとの思いがあります。「社会に開かれた教育課程」や「主体的、対話的で深い学び」をキーワードに、

子どもたちを主語に、学習者が主体になるカリキュラムを考えることを大事にしました。どうしても指導する側の目線に立ちがちですが、学ぶ側の子どもたちを主語にして、「私たちは、どうして国語を学ぶのか」「なぜ高校教育で芸術教科が必修なのか」などの問いに応えられるよう、学ぶことの意義を掘り下げ、指導する内容や方法を組み立て直したというのが一番大きなポイントです。

一ひとりひとりの発達を踏まえた学びをしっかりと縦横につないでいく

今回の学習指導要領では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が位置づけられました。これに照らして小中高等学校の先生方も、幼稚園や保育園での学びや思考の芽生えなどを理解し、そして、「この学年だから、こういう学び」という枠をはめるのではなく、ひとりひとりの発達を踏まえて「できるようになったこと」を、しっかりと繋いでいくことが大事だと思います。

＜幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿＞

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

学校種(幼・小・中・高)ごとに教育の特色はありますが、発達の段階や教科等を越えて縦横に繋ぐ視点を大事にしてほしいと思います。先日、ある小学校の先生から、「園での子どもの主体性を引き出す声かけの様子を見て、自分たちの声かけがかなり指示的だったと気づかされた」という声も伺いました。子どもの姿を起点にして課題を共有できるような仕掛けが大事です。学校種を越えて一緒にカリキュラムマネジメント研修をやってみようという取組もいいと思います。

一「学びの地図」で子どもの学びを支える

学習指導要領を「学びの地図」(学校教育を通じて子どもたちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡せるもの)として示し、幅広く共有していこうという話も議論の中で出てきました。学習指導要領は教科書の元になり、各種教材や民間ベースの教育も含めて方向性を作る指針になっています。コミュニティスクールも含め、地域や保護者が参画し一緒に学校の教育ビジョンを作り上げていくためには、この「学びの地図」を社会で広く共有しながら議論していくことが重要だと思います。教育の質、すなわち子どもたちの「人との関わり」の質、「環境の質」を高めていくことは、すべての大人たちの役割ともいえます。アンテナを高くして、今、各学校が何を大事にしてどのような工夫をしているのか、そうした新たな動きも是非キャッチしていただきながら一緒に考えていけないかと思います。コロナ禍にあって大変な状況に置かれた子どもたちですが、いち早くアクションを起こしたのも子どもたちでした。文化祭が中止になってしまったけれど、オンラインで何かできないか。オンラインなら他の学校とも繋がればいい、もしかしたら世界ともつながれると。こうした子どものバイタリティーを大事にして、大人が後押しする環境を整えていければと思います。家庭だけで抱えこんで孤立しないためにいろいろな繋がりを作っていくことも大事になります。

究極的にはこの「学びの地図」を子ども自身が活用できる形にできればと思います。例えば、NHKさんは多くの映像をアーカイブされていますが、興味関心のあるワードで検索すればいろんなコンテンツを引き出せる。こうしたコンテンツが「学びの地図」とリンクしていれば、究極の個別最適な学びになる。ただ、それだけだと考えが広がらないので、互いにレファレンス(参考・参照、紹介・提供)しながら、先生や友達の考えからも学べるようにすることが必要になると思います。学校の授業も、一人一台端末を活用しながら変わりつつあります。

また、本当の意味で「社会に開かれた教育課程」にするためには、教育の質を支えている先生方の試行錯誤、何に悩み、子どもの姿をどう捉えて、だからこそこういう工夫をしているという姿を、もっと共有できるようになるといいですね。そこから、家庭でどうしようとか、地域でどうしようとか、ここを応援しますよという話になっていくし、応援団も増えていく。批判されるんじゃないかと心配もあるので、大丈夫だよって支えながら、安心して共有できるようにしていくことが、大人みんなが教育の質を高めていくために非常に大事なことだと思います。

一滋賀県では「子どもを主語に」が大事にされている

「学ぶ力」や「読み解く力」を大切にしています。また、「うみのこ」「やまのこ」「たんぼのこ」「ホールのこ」など体験を通じて学ぶことの良さが非常に浸透しています。そういう良さを大事にしていきたいと思います。一方、子どもを巡る課題が多様化している今、もっと専門機関と繋がり、いろいろな人の力と繋いでいけるといいと思います。そうすれば、頑張りたいけれど環境が整ってない子どもたちは福祉などと協力して対応していける。学力テストが課題といわれますが、学びに向かいたいけれど向かえていない環境にある子どもたちの環境どう

考えていくかが、結局は近道なのかなと思います。

＜ジェンダー平等に関する学び＞

ー「隠れたカリキュラム」の影響をなくす

先日、ある大学の理工系の研究者と話していたんですが、小学校中学校のときに、理科が得意でも、進路選択で目が向かないというのは、保護者のアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）や隠れたカリキュラム（教育に関わる大人の言葉や態度などを通して、無意識のうちに子どもたちに伝承され、影響を与えてしまう事柄）の影響がまだまだ根強くあるんじゃないかと。

コロナ禍で理系に進む女子の志願比率が増えたというものの、医療分野の資格系に限られていて、工学系など他の分野で広がるところまでには至っていない。子どもたちが自分の可能性を広げて、本当にやりたいこと、本当にチャレンジしてみたいことに取り組んでいけるような環境づくりもしていかないといけない。県では令和10年に高等専門学校の設置を進めているので、これをきっかけに取り組んでいかないといけない。そんなことを考えています。



ー女性をはじめ多様な人材がイノベーションを生む

数値で女性の採用等に目標を設けることについて、様々な意見がありますが、人の能力を多様な視点で捉えられるようになるためには必要なことだと思います。地道に積み上げる几帳面な優秀さもあれば、日頃のはのんびりしているんだけど何かやるときに力を発揮する優秀さも、人には多様なよさがある。グレンジャーの一人だけ女性という状況のままだと役割が固定化されてしまう。やはりいろんな能力が評価されることが、個人のチャンスを広げ組織を活性化するために非常に大切なことだと思います。女性自身が、こうあらねばいけないと固まらずに自分らしく輝くためにも、企業や大学等が多様な人材を確保してイノベーションを生み出すためにも、必至だと思います。生活者の視点も含め、いろいろな視点を持っていないとクリエイティブなアイデアにつながらない。多様な人材を受け入れたところで新しい物事が生まれると思います。

ー教科を学んで社会に対する見方・考え方を身につける

最近、教科書も随分と変わってきています。例えば高校の家庭科では、男女が協力して生活を創造する力を育てることが大きな目標に掲げられていますが、ライフステージを考えキャリアをデザインしたり、金融について学んだり、生活の営みに関わる見方・考え方を実践的に身につけることが大事にされています。家庭や地域に関わる課題を、さまざまな人と協働して解決していくための、クリエイティブな時間です。また、高校では新たに「公共」という科目もできて、トロッコ問題（多数の命を救うために一人の命を犠牲にするのか倫理上のジレンマ）のような葛藤が生じたり、個人が責任を負うのか社会で負担するのか考え方が対立したりするようなケースについて考えていこうという形です。

さまざまな教科を学ぶことは、物事に対する多様な見方・考え方を磨くことにつながります。例えば、スマートフォンひとつとってみても、仕組みを理解するには技術に関する視点が必要だし、必要なルール作りについては社会の視点が必要になります。スマホを介したコミュニケーションの在り方については特別活動や道徳などで扱うかもしれませんね。というように、新しい課題を多様な視点から捉え考えられるということが教科の意義だと思います。そして、そういうことを大事にする教え方をする先生が元気になるようなサポートができるといいなと思います。さまざまな個別学習アプリが生まれても、学校という場を通じて、多様性を大事にしつつみんなで学ぶ、様々な視点からいろいろ考えるっていうことはますます大事になってくると思います。

ー「これはどういうことかな」「こんなことがあったよ」など一緒に語り合う機会を

文科省では、小・中学生を対象に、男女の尊重や自分を大事にすることの理解や、固定的な性別役割分担意識の解消の理解を深める教材や指導の手引きを作成しています。発達の段階に応じて、小学校の低学年では、性別にとらわれず自身の思いに応じて自由に選択することとか、中学生では、固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みがあることに気づくことなどがねらいとされていますが、これだけではなかなか腹落ちしないので、こうした資料や今の教科書などを眺めながら、一緒に語り合う機会があればよいなと思います。今はまだ地域によって、分野によっていろいろな取組状況があり、過渡期なんだと思います。ただ、子ども自身が自分の可能性を広げていけるように、発達の過程でいろいろ掴み取っていく中に必ず気づきのタイミングがあるっていう状況は確保したいですね。

一子どもたちには、モヤモヤしていることを大事に

モヤモヤしていることを大事にしてほしい。それは自分の世界を広げていききっかけになるものだと思うから。できればそれをいろいろな人と共有しながら一緒に考えていく。同じ世代の友達でもいいし、興味を持っている大人もいたら世代を超えて一緒に考えてもいい。大人は、子どもたちが、モヤモヤしながら世界を切り開いていくのを後押ししていけたらいい。昔ほど輝かしい未来が描きにくい世の中になっていますが、そんな今を生きる子どもの思いを大事にしながら応援していけるように、そして、そういう視点で頑張っている大人を私は行政から応援したい。そういう繋がりがどんどん生まれていくといいなと思います。すぐ答えの出ることに飛びついたりうけけれども、そうじゃないことも、やっぱり大事にしたいと思います。

一SDGs 5×SDGs 4×MLGsを切り口に

小学生・中学生・高校生向けの副読本を県独自に作り、先生方の研修も充実させています。そのほか、男性の家事育児参画に向けた啓発や、大学生とジェンダーについて考える取り組みもしています。

今、民間も含め社会全体でSDGsを推進していますが、それぞれの目標には細かいターゲットが設定されていて、例えばSDGs5「ジェンダー平等」には、5.4に「無報酬の育児介護や家事労働を認識・評価する」とあります。そうしたターゲットも含め、ジェンダー（SDGs5）と教育（SDGs4）は、17すべての目標を達成するために必要不可欠な基盤となるものです。それをもう一度振り返って再認識してもらえるといいなと思います。さらに滋賀にはMLGsがあり、自分ごととして取り組みやすい工夫がされていると思います。こうしたことはもっと世界に発信していいんじゃないかなと思います。

MLGs（マザーレイクゴールズ）は琵琶湖版SDGs

Goal 1	清らかさを感じる水に
Goal 2	豊かな魚介類を取り戻そう
Goal 3	多様な生き物を守ろう
Goal 4	水辺も湖底も美しく
Goal 5	恵み豊かな水源の森を守ろう
Goal 6	森川里湖海のつながりを健全に
Goal 7	びわ湖のためにも温室効果ガスの排出を減らそう
Goal 8	気候変動や自然災害に強い暮らしに
Goal 9	生業・産業に地域の資源を活かそう
Goal 10	地元も流域も学びの場に
Goal 11	びわ湖を楽しみ愛する人を増やそう
Goal 12	水とつながる折り暮らしを次世代に
Goal 13	つながりあって目標を達成しよう

＜子どもたちの未来に向けた思い＞

一学校を間違えられる砂場に

日本の教育は海外では高く評価されています。どうしても教科教育が目立ちますが、特別活動や総合的な学習の時間など含めてホリスティック（部分ではなく全体を包括的に捉える態度や考え方）、全人的な発達を目指しているところが非常に高く評価されています。加えて、先生方のレスポンススタディ、授業研究が非常に活発です。理論的なものと実践的なものが常にぐるぐる回りながら教育の質を支えています。そういう良さは大事にしながらやっていかないといけないと思っています。

一方の課題として自己肯定感の低さがあります。子どもたちは、大人の目線を気にして、間違えたことをやってはいけないと思いがちですが、学校は社会に出る前にいろいろ失敗ができる場所、チャレンジして失敗してまた次に向かう場所。間違えられる砂場みたいなもの。そういう場として認識されていくと変わってくるかも知れません。思いっきり行動できるようなテーマや探究する過程が大事にされるかどうかだと思います。

一つながりながら一緒に子どもの将来を支える

滋賀で生活して学べるってすごい、うらやましいと思います。まだ半年くらいしか経ってないですが、これだけすぐに自然と触れ合え、歴史のことも考えられ、教科書に出てくることのホンモノが身近にある。素晴らしい学びの場、生活の場というのは住んでいると気づかないかもしれないけど、外から見ると本当に素晴らしいところだなと思います。ですから、どんどんここでチャレンジしてもらいたいし、もし何か辛いことがあるんだったら、誰かに伝えてほしいし、そういう子どもたちを応援するために頑張ってください先生方や親御さんたち、関係の皆さんを全力で応援したいと思っています。

コロナ禍だったり、国際情勢・社会情勢の変化が激しいときなので、前例のない中での試行錯誤をしなきゃいけない時期ですけど、悩んでいるのは一人ではない、同じ課題意識を持ったり応援している人は、たくさんいるので、是非繋がりながら一緒に子どもたちの将来を支えていければと思います。



認定特定非営利活動法人四つ葉のクローバー理事長

杉山真智子(すぎやままちこ)さん

児童養護施設退所者等、社会的養護の必要な若者たちの自立支援に寄与することを目的とする団体として2013年「特定非営利活動法人四つ葉のクローバー」を設立。シェアハウス(現:自立援助ホームシェアハウス・夢コート)を運営。困難を抱えた若者の自立を支援する mother Board(マザーボード)開設

令和4年度内閣府から「女性のチャレンジ賞」を受賞された杉山さんに活動の様子などを伺いました。

＊内閣府では、様々な分野においてチャレンジすることで輝いている女性個人、女性団体・グループおよびそのようなチャレンジを支援する団体・グループを顕彰し、男女共同参画社会の実現のための機運を高めるため、平成16年度から「男女共同参画週間」に合わせて 女性のチャレンジ賞等の大臣表彰を行っています。

■四つ葉のクローバーを設立したきっかけは、子どもたちとの出会い

15 年ぐらい前に私が子育てを終えたころ、児童養護施設のボランティアで出会った子どもたちが家庭の中に居た私の運命を変えてくれました。

週末に一回来てくれるおばちゃんは優しいから、子どもたちは「おばちゃんの家泊まりに行きたい」って言うんです。それで里親の資格を取りました。週末や夏休み、冬休みに遊びに来たり、泊まりに来たりするようになりました。「今日のご飯何食べる?」「カレー食いたい」「カレーの用意しようか」って一緒にカレーを作ったり、「ご飯の前にお風呂入ろう」「もう宿題した?」「ご飯食べたならテレビゆっくり見よか」など一般家庭なら当たり前の日常に子どもたちは目を輝かせました。

当時、年長さんの男の子が、眠る前にお布団の中で今日の出来事を一生懸命話しをしてくれたとき、あれ?寝ちゃったのかなと布団をめくったら、声を押し殺して泣いているんです。「おばちゃんの子どもに生まれたかった」「なんでおばちゃんが僕を生まへんかったや」って私のお腹をどんどん叩いて泣くんです。「ごめんな」しか言えなくて。でも「ごめんな」で終わらせてはいけません。「18 歳になったら来られる大きな家を作って待っているから、今は、ここで頑張って先生の言うことを聞いて頑張れや」と伝え、自分で何かしなくてはならないとの思いを強くしました。

当時は原則 18 歳で施設から出て自立して生きていかないといけないので寮付きの会社に就職したりします。でも、いつの間にか仕事を辞め、寮も追い出されて行方不明になってしまっている。また、必死の思いで大学に進学しても色々な問題にぶち当たり、退学してしまった子もいました。当人は施設の先生たちが一生懸命に寄付金を募り進学に協力してくれたのに退学してしまっただけで誰にも相談できない。困りごとの積み重ねで転落していく子たちを目の当たりにしました。18 歳で施設を出た後からの支援が大事じゃないかと福祉には全く素人でしたが仲間呼びかけ守山市にシェアハウスを作ったのが始まりです

クローバードリームライブで応援の輪が広がりました

当初三年間は、民間団体としてのスタートでした。運営資金と就労支援のために餃子屋も同時に始めましたが何もかも素人でうまくいきませんでした。若者は暴れるし、むちゃくちゃな日もありました。でも、何とかこの子たちが仕事に就かないといけないと、「この子を雇ってもらえませんか」と一緒に会社回りをしていたときには、「こんな不景気にこんなマイナスの人間を雇って、あんたうちの会社つぶす気か」と言われたりもしました。また、一生懸命働く努力をしても生活保護に繋がらない子もいるので、役所の窓口に連れて行き相談しても、担当の方が「働いてください。働けるでしょう。こんなに立派な身体をしてはるんやから」「そういう人ばかりうちに来てもらったら困るんですわ」って言われたこともありました。悔しさで泣けてきました。若者は隣にいます。「僕が悪いんです。僕が働けないから杉山さんに嫌な思いをさせてごめんなさい」と言う子たちを何とかしてあげたい。だけど世の中は「寄付してください」とお願いして、寄付してらえるほど甘くありません。今まで相手にもされなかった会社から「寄付させてくださいと言わせるようにする!」とその時自分に誓いました。

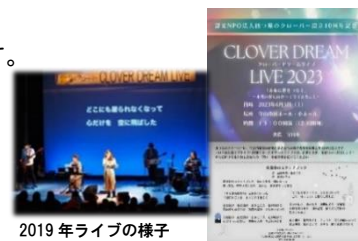


毎年開催するドリームライブではみんながSOSを届ける地域づくりをするために虐待を受けた若者たちが語ります。目的は地域住民に虐待の実態や当法人の取り組みを周知することで、虐待の予防・早期介入に繋げること、若者たちが虐待を乗り越え自身の生い立ちの整理をし、なおかつ来場者に元気になってもらうことです。今まで自分を責めることしか出来なかった子たちに自己肯定感が高まっていき自尊心が回復してきています。彼らにとって自分が人の役に立てたことが大切なんです。今年も令和5年6月3日(土) 守山市民ホールで開催予定です。

負の連鎖を止めて、人生を豊かに生きてほしい

子ども連れて帰ってくる卒業生もいます。毎月二回の若者食堂にも帰ってきています。

「幸せってなんだろう?」って聞いたら「俺ら普通に良いねん」って。「家があって、家族がいて、ご飯が食べられることやな」と言います。そういう会話の中で大切なことは負の連鎖を止めることです。「結婚して子どもを持って虐待してしまうかもしれない恐怖」そこを止めていく。いい人生を送るためには、やはり、自分で稼いでささやかでも幸せに生きていくことを目標にすることが大事です。ここに来る若者たちは、優しいです。自分が傷ついた分、優しい子たちですがやさしさだけでは生きていけない。大変なこともあったけど頑張った良かったと笑って生きてもらいたい。週三回「希望の学び舎」これは、資格を取得するなどして地域の仕事を請け負ったり、将来的には起業できるようにという勉強会も始めています。



2019年ライブの様子

若者達とは関係性ができ、成長を感じるときが来ます。そうした中で、「もう親や学校の先生、社会など他人の責任にすることは、やめよう」と話をします。どうしても他人の責任にしてしまう時期もあります。自分を痛めつけることしかできない時期もあります。でも、それを乗り越えて自分で自分の人生を切り開きましょう「自分の人生としてしっかりと受け止め、そこからどう生きていくのか。ここからは自分の責任だよ」っていうことを若者たちに伝えていきます。



勉強会の様子

子どもの人生は子どものもの

私は、この子どもたちに、ココロが共鳴し、ざわざわして、ほっとけないって導かれるようにして今があります。何をしたいかわからないという人が結構多いですが、例えばそれは、動物愛護であったり、自然環境であったり、政治であったり、スポーツだったり惹かれるものがあると思うのです。いろいろな人がいて社会が成り立っているから、人と同じでなくていいんです。自分のココロが喜ぶもの、共鳴するものが早い時点でわかった方が生きやすいです。それは、待っているだけでは出会えない。わくわくするものに会う努力も大事なのかと思います。



うちに来る若者たちの親たちは我が子に自分の夢を託していると感じます。お母さんの人生はお母さんのもので、子どもの人生は子どものものです。それをお母さんが絶対に邪魔しちゃいけない。だけど、お母さん自身が、生きがいもない。何もすることなくて辛い。寂しい。不安など孤独を抱えているから、子どもに夢を託し依存してしまう。だから、母親自身が導かれるような使命に燃えるものがあれば、子どもに依存しなくてすむと思っています。このために苦しんでいる子どもがたくさんいます。四つ葉に来て、「あんな親と別れてよかった。清々した」「あんな親はもう関わりたくない」と切り捨てることのできる子は、早い段階で苦悩を乗り越えてステップアップしていけるように思います。「自分はここに来てよかったけれども、親は大丈夫だろうか」と親の心配をしている子は、本当の意味では乗り越えられません。親の生き方って子どもに本当に深く、深く、深く影響するということ、子どもの人生の足かせになってしまうということを、声を大にして言いたいです。親といえども子どもの人生を邪魔する権利はありません。

子ども・若者の人生にここまで深く関われる仕事は他にないかもしれません。職員には、とても重要な責任のある大切な仕事で誰にでもできる仕事じゃないから頑張ると、いつも言っています。私は、一度しかない人生、仕事もプライベートも楽しんで「あー楽しかった。ありがとう。バイバイ」と大好きな人たちに囲まれて人生を閉じることを夢みながらこれからも自分の出来る事をしていこうと思っています。



Q1)「IYOU 淡海」ってどんなところ？

1993(平5)年に発足した「滋賀県男女共同参画型社会づくり推進連絡協議会」を皮切りに、1999(平11)年の「滋賀県男女共同参画推進協議会」を経て、2008(平20)年に、現在の「特定非営利活動法人男女共同参画をすすめる会・IYOU 淡海」を設立しました。「IYOU 淡海」と呼んでいます。協議会発足から30年、NPOになってから25年を迎えようとしています。

Q2)どんな活動をしているの？

男女共同参画社会の早期実現を目指し、滋賀県立男女共同参画センターの貸館等や託児業務、図書資料室の運営、G-NET シネマなどに携わりながら、暮らしに身近な視点で、普及啓発活動などに取り組んでいます。

令和4年度は、新たに、女性たちがつながれる居場所づくりとして「大人キャンパス「スカット」」(月1回)に取り組めました。図書・資料室でゆっくり自分に戻れる「子育て中のあなたのための自分時間」の開催にも力を入れました。いずれも無料託児付きです。また、広報誌「IYOU 淡海」とともに、新たにミニ広報誌「ジェンダー潮流」(年6回)を発行しました。そのほか、県立男女共同参画センターはじめ県内各地で開催される団体や企業などの出張託児にも取り組んでいます。

令和5年度も、さまざまなイベントを予定していますので、是非お気軽にご参加ください。お待ちしております。

G-NET
カフェ

大人キャンパス スカット

「困っている女性を一人ぼっちにしない」を合言葉に

IYOU淡海では、月に1回、「大人キャンパス「スカット」」を開催しています。日々の生活の中で、女性特有の体の悩みや困り事などを気軽に話せる居場所。前半は、「ちょっとためになる学びの場」として身近なテーマでセミナーを、後半は、日頃の悩みを気軽に話したり相談し合ったりする「ほっこりタイム」。皆さんが、ホッと一息つながれる時間です。



次回は、4月19日(水)お気軽に覗いてください。ご参加をお待ちしています。

色紙に筆ペンで好きな一文字を書こう

(日 時) 4月19日(水) 10:00~11:30
10:00~10:45 筆ペンで好きな一文字タイム
10:45~11:30 ほっこりタイム
ーゆっくりお話ししましょう
(場 所) 滋賀県立男女共同参画センター交流室
(参加者) 十数名程度
(参加費) 300円(実費)
*筆ペンはご持参ください

無料託児
あります!

☆予約申込

お問合せはこちらの
フォームから



☆託児申込は

こちらのフォームから



E-mail での申込

npo_iyou_oumi_2008_4@lily.ocn.ne.jp

予告!5月10日(水)
10:00~11:30
大相談会を開催!

助産師 斎藤智孝さん
(共同助産所 お産子の家)
をお迎えした第2弾!!
女性のからだのこと
ココロの健康のこと
心配なことや困ったことなど
たっぷり聞いちゃおう!

お気に入りの写真で
フォトフレームを作りました!

令和5年1月18日(水) 10:00~11:30
スクラップブック『はじめまして』代表 清水千秋さん



こんなことで
悩んでいるの



おしゃべりが
楽しみ!

そう、そう
ある、ある。

令和4年11月2日(水)

13:00~14:30

助産師 斎藤智孝さん
(共同助産所 お産子の家)



女性のからだのこと、ココロの健康の
こと、ストレス解消法などについて
学びました

特定非営利活動法人 男女共同参画をすすめる会・IYOU 淡海 理事長 吉岡康子
〒523-0891 滋賀県近江八幡市鷹飼町 105-2

TEL 0748(43)1620/FAX 0748(43)1621/E-mail npo_iyou_oumi_2008_4@lily.ocn.ne.jp

